

第6回しただの郷未来の学校設置準備委員会 会議概要

- 1 日 時 令和8年2月25日(水)午後6時開会、午後7時55分閉会
- 2 場 所 下田中学校 食堂
- 3 出席者 山田宏高委員、前田政志委員、刈屋剛委員、大竹啓五委員、佐藤アキ委員、多田英和委員、西川聡委員、山田泰輔委員、神田晃委員、長谷川光栄委員、石月貴大委員、清水昭委員、高橋多美子委員、坂井大委員、皆木美知子委員、佐藤久恵委員、刈屋優委員、増井由春委員、佐藤貴紀委員、佐藤裕之委員、坂井浩行委員、櫻澤健委員、坂井友也委員、坂井勝委員、高橋将也委員、刈屋優樹委員、長谷川恵梨委員、鈴木航委員、山田守委員、川村貴則委員、渡辺歩委員、佐々木弘一委員、山下大樹委員、若林初代委員、坂井真理子委員、佐藤智広委員、安井朋委員、齋藤貴子委員、下條悟委員、池田岳康委員、谷内田誠委員、宮嶋利光委員、亀倉伸嘉委員、伊藤正史委員、金子裕彦委員、伊藤勝広委員、佐藤康子委員、三村陽子委員、小出晃大委員、相澤一徳委員、中村正之委員
(欠席委員 川沼正憲委員、川口裕委員、込山雄一郎委員、詰田真央委員、高橋美咲委員)
- 4 職員等 滝沢市長、高橋教育長、平岡教育部長、野水教育総務課長、相田学校教育課長、樋口教育センター長、佐藤教育総務課課長補佐、外山学校教育課統括指導主事、畑教育センター統括指導主事、井上教育総務課庶務係長、小柳教育総務課学事係長、坂上教育総務課施設管理係長、富樫教育総務課庶務係主任
- 5 傍聴人 4人
- 6 議 題
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) 報告 第5回しただの郷未来の学校設置準備委員会の会議概要について
 - (3) 報告 第5回しただの郷未来の学校設置準備委員会後の動向について
 - (4) 報告 しただの郷学園小学校の統合進捗説明会の概要
 - (5) 議事 統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章について
 - (6) 次回、第7回しただの郷未来の学校設置準備委員会の日程について
 - (7) 各部会による検討

7 審議の経過及び結果

(1) 市長あいさつ

先日の進捗説明会に正副委員長、校長及び委員に御参加いただき感謝申し上げます。準備委員会の皆様には、活用する校舎という一番大きな御判断をいただいた。市長という職は、大きな問題を判断するときが一番負担がかかる。今回の小学校統合の進め方は、我々が決定して皆様に諮るという選択肢もあったが、皆様に丁寧に議論いただき、その結論をいただいた。このプロセスを踏んだ上で一定の合意をいただけたことは、下田地域のみならず三条市全体にとって非常に大きな財産になると思う。今後、中学校統合や他の地域の学校統合をせざるを得なくなったとき、今回のプロセスが生きてくる。これまでの判断や議論に対して自信を持っていただき、開学までの2年間、下田地域の子どもたちや地域のために引き続き議論いただくようよろしくお願いいたします。

(2) 報告 第5回ただの郷未来の学校設置準備委員会の会議概要について

(3) 報告 第5回ただの郷未来の学校設置準備委員会後の動向について

(4) 報告 ただの郷学園小学校の統合進捗説明会の概要

～資料のとおり

(5) 議事 統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章について

(山田委員長)

第5回準備委員会では、「小中一貫教育校の施設分離型」に決定した。また、その後、下田中学校校舎に小学校が統合するときには、子どもたちが2回引っ越しを経験しないよう配慮し、そのときの形態は状況を見て判断することとした。さらに、令和10年4月の小中一貫教育校の施設分離型の段階で、将来、義務教育学校などとなったとしても使えるような校歌等を設定するなどの工夫を行うこととしていた。

進捗説明会では、校舎や駐車場のハード面だけでなく、先生の配置やクラス分けなど子どもたちの心のケアについての心配が多かった。校名、校歌、校旗及び校章は子どもたちの心に影響を及ぼす重要な検討事項であると思う。まずは、決め方から決めたい。委員全員で決めるより制定委員会の立ち上げを考えてもよいのかもしれない。それも含めて意見を発言いただきたい。

(坂井浩行委員)

自分が中学生のとき、髪型は坊主とするという校則であったが、様々なところで働き掛けて短髪でもよいことに変えたという経験がある。これは、今でも話題になるくらいの思い出となっている。この経験から、校名等のいずれかをPTAや子どもたちに決めてもらうことで、思い出や誇りにつながるのではないかと思う。今回の統合をネガティブに捉えている人もおり、自分たちが議論に加わることでポジティブに切り替わるきっかけとなるのではないか。

(山田委員長)

校名等については、制定しても5年程度でなくなるようでは寂しい。一方で、校歌は、令和10年4月の段階で中学校の校歌を変えると中学生にストレスを与えるのかもしれない。中学校校歌のメロディーを残して、歌詞を子どもや保護者が考えることでもよいのかもしれない。

(清水委員)

旧下田村は教育の村という歴史があることを考えると、校名は、「下田小学校」が良いと思う。校歌は、山田委員長の意見と同じである。校章は、下田中学校の校章が旧鹿峠中、長沢中及び森町中を三角形で表していることを考えると、これを5つの小学校で五角形としてもよいのではないか。

(川村委員)

子どもたちが当事者になることはよい考えだと思う。例えば、校歌は子どもたちが好きなミュージシャン等を選んで、その人に依頼することはできるのか。

(山田委員長)

依頼することはできると思うが、中学校校舎に小学校が統合したときに、その校歌を使い続けることができるかを考えなければならない。

(坂井勝委員)

校歌は、下田中学校の校歌が良いと考える。校名、校旗及び校章は、各学校で保護者や子どもたちの意見を聴いてはどうか。

(石月委員)

準備委員会は毎回原案がなく漠然としており、委員からの意見が出ない、出ても同じ人しか意見を言わないことは問題である。

(佐藤智広委員)

校名等を決めるプロセスを決めると良いのではないか。旧中浦小学校の校歌は諸橋轍次博士が作詞をしている。例えば、校旗や校章は、下田地域にゆかりがあるデザイナーに作成を依頼するなどとしてもよいと思う。

(前田副委員長)

旧鹿峠中学校の校歌は、生徒会が作詞をした。

(西川委員)

坂井浩行委員と同じ意見で、統合にネガティブな人もいるので、保護者等を巻き込むことはよいと思う。例えば、校名のアンケートをとるなど多くの方に参加いただきたい。校歌は、子どもたちが喜ぶような人に依頼すると、他校からうらやましがられるような学校になるのではないか。校旗や校章は義務教育学校などとなったとしても使えるようなものを決めなければならないと思う。校名は、下田小学校でもよいが、義務教育学校となったときに変わることはよくないのではないか。

(山田委員長)

おそらく義務教育学校となれば「ただの郷学園」となるのではないか。小学校であるうちは愛着のある名前でもよいのかもしれない。

(坂井大委員)

校歌は、川村委員の意見と同じく、なるべく著名な人に作詞、作曲していただくとうよいと思う。また、中学校の校歌のメロディは小学校の子どもたちが歌うには難しいと思う。校歌は、令和10年4月の段階で中学校も含めて新しく制定した方がよいと思う。中学校の校歌が変わることになるが、小学生の統合のストレスを思うと中学生には許容していただいてもよいのではないか。校旗は、旧下田村全域という事で、旧下田村旗としてもよいのではないか。

(神田委員)

小学校5校は廃校となるので、5校合同の卒業制作という形でプロジェクトを立ち上げてよいのではないか。

(山田泰輔委員)

校歌や校章をいつまで使うのかを決めた方がよい。有名な人に依頼しても、すぐに無くなっては失礼である。校歌等の決め方はテレビ番組の企画でタレントを呼んで創るということでもよいのではないか。

(山田委員長)

沢山の意見をいただいた。一度、各学校運営協議会に持ち帰っていただき、保護者等の意見を集約してもよいと思うが教育委員会事務局はどう考えるか。

(平岡教育部長)

校名、校歌、校旗及び校章は、その学校のアイデンティティであり、重要な検討事項である。検討の方法をお諮りした今回の準備委員会では、こちらで予断を持た

ず、皆さんの率直な思いを聴かせていただいた。各学校運営協議会に持ち帰っていただくのも一案だが、教育委員会事務局が今回いただいた様々な意見を預かり、次回、今後の検討方法の案を示すことでいかがか。

～全員異議なし～

(6) 次回、第7回したただの郷未来の学校設置準備委員会の日程について

次回の開催については、本年度中は今のところ予定していない。必要に応じて改めて御案内することはいかがか。

～全員異議なし～

(7) 各部会による検討

非公開により実施